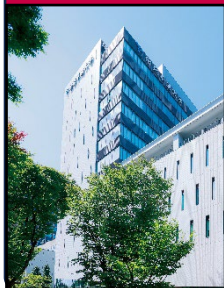


日本留学経験が現在の職務に与える影響



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科
グローバルコミュニケーションコース 講師

黄 美蘭 HUANG, Meilan

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード : 日本留学経験・異文化間教育・留学生・キャリア教育・日本語能力

研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

本研究は、日本で大学や大学院などを卒業・修了し、中国と日本で企業等に就職している中国人元留学生を対象に、日本の高等教育機関で学んだ知識や日本社会におけるアルバイト活動、インターンシップ活動などの社会経験が現在従事している職務にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、日本留学経験が中国と日本の職場の職務に及ぼす影響を比較検討することを目的とした。海外留学経験は収入や職業キャリアに正の影響、仕事や私生活に充実感や満足感をもたらす（新見・米澤・秋庭，2018）としているが、日本で留学を終え、中国に帰国して就職した中国人帰国留学生や日本で就職した中国人元留学生を対象に、彼らが日本留学経験をどのように捉えているのかについて検討した先行研究は僅少である。本研究は、日本留学経験が中国と日本の職場の職務に与える影響の差異を明らかにすることにより、日本留学の意味を再考し、中国人留学生の将来のキャリア選択、キャリア形成のための重要な参考資料を提供することができる。

本研究は、質的研究と量的研究で構成される。質的研究手法として半構造化インタビュー調査、量的研究手法として質問紙調査を実施した。半構造化インタビューを通して現在の職務に影響を与えている日本留学経験の内容について調査した。インタビューデータを質的手法で分析し、本研究の仮説を生成した。また、半構造化インタビューデータを参考に質問項目を設け、質問紙を作成した。質問紙調査では、現在の職務に影響を与えている日本留学経験と日本と中国で就職する目的、仕事に対する価値観、仕事満足度に加え、中国人元留学生社員の属性との関連について明らかにし、質的研究で得られた仮説を検証した。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

グローバル化が進んでいる今日の日本において、元留学生社員という「高度人材」は増加の一途を辿っており、日本の職場も多様化している。元留学生社員は日本留学経験を通してどのような学びや気づきがあり、それを現在の職場にどのように活かしているのかを検討することは、留学生のキャリア選択、キャリア形成のために重要であると考えられる。

日本留学経験のある元留学生社員は、現在の職務において日本留学経験をどのように捉えているのか。本研究は、日本留学の意味を再考し、留学生の将来のキャリア選択、キャリア形成のための重要な参考資料を提供できる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「中国人元留学生の就職活動—中国で就職した場合—」
- ・「日本留学経験が現在の職務に与える影響—日本で企業に就職した中国人元留学生社員の場合—」
- ・「日本企業における日本留学経験の活用と労働価値観—中国人元留学生社員の場合—」

学外連携広報啓発活動「地域安全安心プロジェクト」



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 講師

鷺山 啓輔 Sagiya Keisuke

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域連携を通じた広報活動としてのメディア制作



研究の概要

SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを
SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

警視庁野方警察署と本学は、「広報啓発活動への協力体制に関する協定」を締結した。本協定は、犯罪抑止、交通安全、災害対策など、地域の安全・安心に関わる課題に対応するために締結されたものであり、本学の人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コースの学生および教員の知見と技術を活かし、広報啓発活動に協力することを目的とする。



協定締結に先立ち、野方警察署とメディア文化コース有志の学生チームは、「特殊詐欺対策」に関する YouTube 動画を共同制作した。制作された動画は、中野区公式チャンネルにて公開されている。また、動画制作を通じて広報啓発活動に貢献したことが評価され、学生チームに対し、野方警察署より感謝状が授与された。

メディア文化コースでは、今後も映像制作やデザインに関わる知見と技術を活かし、防犯意識の醸成および広報啓発活動に積極的に寄与することで、地域に貢献できればと考えている。



制作チーム : 大山航平、長島優希、上原蓮、高橋知也、若松俊人 (2025 年度 3 年生)

指導 : 鷺山啓輔

YouTube リンク : <https://www.youtube.com/shorts/32K8V7r2UR0>

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

プロジェクトを通じた、地域住民や警察署の方々とのコミュニケーションを経ての映像制作は、学生にとって非常に貴重な実学体験の場となっている。成果物は YouTube を通して、ショート動画として実際に公開されることで、学生の自信と達成感を生み出すとともに、大学の地域貢献としても社会に還元されている。

短編映画『芋穴のささやき』 “Whispering of the Natural Refrigeration Hole”



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 講師

鷺山 啓輔 Sagiya Keisuke

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](https://sagiya.com/cv-jp/)

キーワード : 映画・フィクション・ドキュメンタリー・芸術祭・洞窟

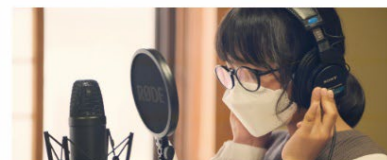
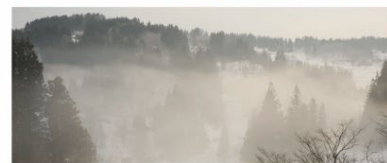
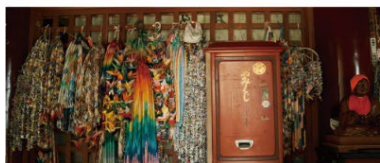


研究の概要

本作は、「越後妻有 大地の芸術祭」に向けて約 2 年間の期間でリサーチ、ワークショップ、撮影、編集を経て完成した短編映画となる。リサーチで新潟県に訪れた際に、穴、洞窟、坑道、水道に関する聞き取りをしていた中で、妻有の十日町に「芋穴」と呼ばれる食糧貯蔵庫があることを知った。外気が入り込みにくい構造の穴の中の温度は、鍾乳洞のように安定していながら、トンネルと違い入口と出口が同一で、外界から遮断された護られた世界と捉えることができる。芋穴には、厳しい冬の山間の食料確保という生活様式が現れている。穴の話から始めて、地域の方々との関わりから紡ぎ出した声を皮切りに、過去から未来へとつながる言葉の集合体を映像で記録（貯蔵）したい。「芋穴」を舞台に、ドキュメンタリーからフィクションへ、そして歌へとゆるやかに変容していく短編映画を地域の子供達とのワークショップを軸に制作することになる。子ども達の心の中に隠れている満たされない想いが節々で見え隠れした。言葉にならない心の奥に溜まったものが、合唱と共に芋穴から大地へ解放されていく。そんな映画に成り得ていれればと願っている。

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを



Copyright © Keisuke Sagiya All Rights Reserved.

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

リサーチ・撮影・ワークショップ・設営・公開を経て得られたフィードバックは、制作活動に反映され、映像作家としての研究としても最新の技術取得・ワークフロー構築の面で、学生の教育に還元されている。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

「<https://sagiya.com/cv-jp/>」をご覧ください。

タイにおけるイスラームの複雑性と共生



【中野キャンパス】 人文社会学部 経営学科 経営コース 准教授

柴山 信二郎 Shibayama Shinjiro

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : タイ・イスラーム・ムスリム



研究の概要

SDGs 目標 1 : 貧困をなくそう

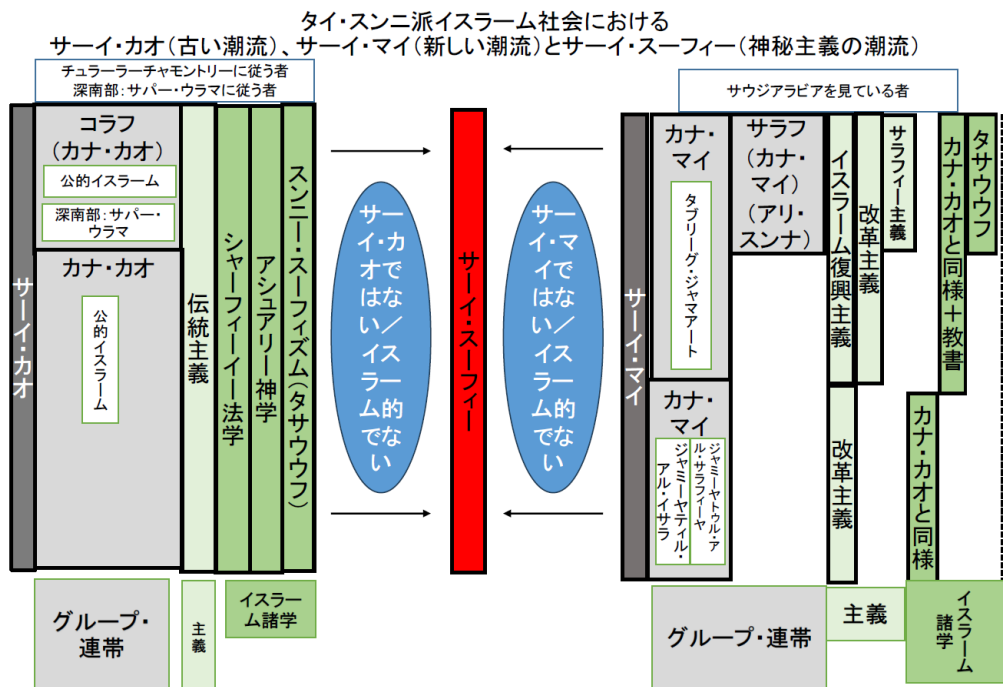
SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

仏教国とのイメージが強いタイだが、イスラーム教徒も多数暮らしている。その内、98~99%程度がスンナ(スンニ)派で、1~2%程がシーア派だと推測される。タイのスンナ派イスラーム社会では古くからサーイ・カオ(古い潮流)、サーイ・マイ(新しい潮流)の2つの大きな潮流が見られた。2つの潮流間にはイスラーム思想と実践の相違から摩擦・対立が見られながらも、イスラーム社会内外において共生の努力をしている。

また、歴史の中で、それぞれの潮流においては異なるグループ(カナ)が出現し、一つの潮流にも様々な思想や実践が見てとれる。更に2大潮流に加えて、「イスラーム的ではない」と非難されるサーイ・スーフイー(イスラーム神秘主義の潮流)も観察できる。本研究では、タイのイスラームの複雑性の一端を明らかにし、そこで起こっている摩擦・対立と共生の取り組みについて検討・考察を

おこなっている。

なお、1979年イラン・イスラーム革命をきっかけにシーア派においても思想と実践の相違からカナ・マイ(新しいグループ)が起こっており、シーア派社会においても多様化が見られている。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界人口の約1/4を占めるイスラーム教徒であるが、思想や実践、イスラーム社会の実情はあまり理解されていない。多様な思想・実践やイスラーム社会で起きている摩擦・対立、共生への取り組みを解き明かすことにより、イスラーム金融やハラール産業等の独特の形態を持つイスラーム経済へのアプローチについて考える/再考する切っ掛けを提供できると考えている。また、イスラームの思想・実践及びイスラーム社会の複雑性を紐解き、実態を明らかにすることにより、イスラームフォビアの通減・解消を目指す。

知的財産・論文・学術発表など(詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください)

【学術論文】

- ・「タイにおけるスーフィズムの継承・維持と広がり」
- ・「タイ深南部(南部国境地域)事情—その62~73—タイのイスラームスーフィズム/カーディリー教団(1)~(12)」

【学術発表】

- ・「タイのスーフィズム:カーディリー教団の系譜とネットワーク」

公益財団法人委託「芸術劇場 アーツプロジェクト」



【中野キャンパス】人文社会学部 人間文化学科 メディア文化コース 助教

新井田 宇謙 Niida Takanori

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域振興・美術・公共展示・ディスプレイデザイン



研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを



公益財団法人の委託を受け、芸術劇場のエントランス壁に11~12月の期間、クリスマス为主题としたアートディスプレイをおこなう。劇場の雰囲気をもくし、来場される方々が鑑賞によって楽しめる事を目的として、本学メディア文化コース有志学生が主となりデザイン・制作・設営展示・撤去搬出までの一連の計画と作業を実践する、大学×地域連携のアートプロジェクトである。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

公共に設置されるディスプレイデザインを学生が主となりおこなう機会を自治体等に頂くことで、学生にとって自身のデザイン制作やコミュニケーションスキルのあり方と社会の繋がりを実践的に考察する場を得ることができる。また、公共施設スペースのディスプレイ設置によって、季節イベント等の広報とともに自治体と学生の連携する地域活動の広がりとして期待できる。

地域医療の視点からみた明治期の近代医療システム構築過程の解明



【中野キャンパス】 ヒューマンケア学部 看護学科 准教授

松村 紀明 Matsumura Noriaki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 地域医療・医学史・医療史・医史学

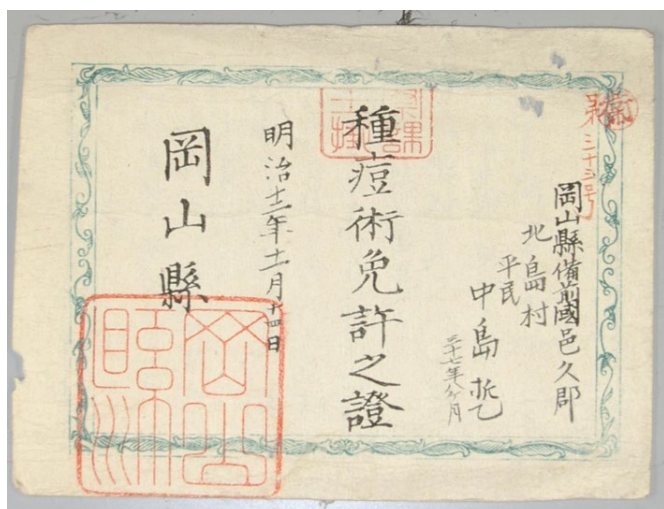


研究の概要

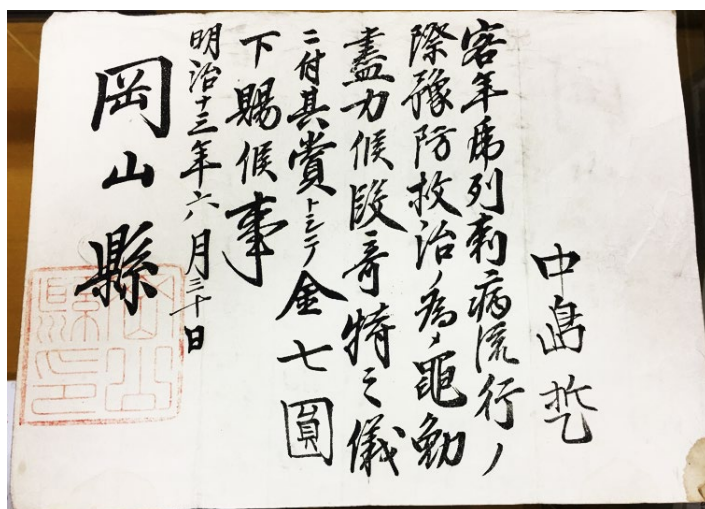
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

明治初期日本における近代医療システムや公衆衛生システムの構築過程について、地域医療の視点からの解明に取り組んでいる。1874（明治7）年の「医制」の公布に始まる各種の近代的医事法令の制定に先導されながら日本の近代的な医療システムなどは整備されていった、というのが一般的な歴史認識となっている。

しかしながら、全国的にみても大多数の府県で免許医（近代的な医学教育を受けた医師）が従来開業医（いわゆる在村医など）を数的に上回るのは明治30年代以降であり、それまでは地域医療の現場の担い手は基本的に従来開業医であった。しかも彼らの活動は単なる日常的な診療の域に留まらず、医学教育・公衆衛生・防疫活動などの、一般に「近代的な医療活動」と呼ばれる分野にも及んでいた。彼らが明治期に地域医療の現場でどのような活動をおこなってきたのかを解明し、近代医療システムや公衆衛生システムの構築過程を問い直し、地域医療の視点からそれらの実像を明らかにすることを目指している。



種痘術免許証（明治12年）



コレラ流行時の医師への表彰状（明治13年）

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

医療システムの構築を地域という視点（地域医療史という視点）から解明することは、地域社会における公共サービスの構築や維持という点へのヒントとなるだろう。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

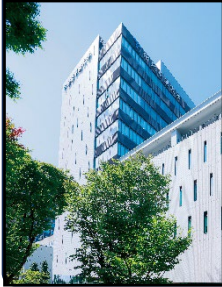
【科研費】

- ・（基盤研究C）「在村医の視点からみた明治初期の近代医療システム構築過程」

【著作】

- ・「岡山の種痘 ～近世・近代の感染症との闘い～」
- ・「岡山の衛生と隔離病舎 ～近代の感染症との闘い II～」

住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルの検討



【中野キャンパス】 人文社会学部 経営学科 経営コース 准教授

間部 豊 Mabe Yutaka

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 電子図書館・電子書籍・電子資料・図書館サービス・情報サービス



研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

ウェブ上には多くの情報が氾濫しています。その中には有益な情報も、正確な出典を伴わない誤った情報もあります。その一方で図書館にある情報源は、出版流通に至るまでに著者や編集者をはじめとする複数のチェックが入り、情報の正確性や典拠性が担保されています。しかし、現在人々の情報探索行動において中心となっているのはウェブ情報源です。オンラインで探索・参照可能で簡単に入手できるウェブ情報源は、その入手性や利用可能性において印刷資料よりも好んで用いられています。

そんな中、近年図書館において導入が進んでいるのが電子図書館サービスです。2023年10月現在、520の自治体で運用されています。電子書籍や電子雑誌は一般的なウェブ情報源と同様にオンラインで利用できる電子資料でありながら、出版流通を経た正確性・典拠性のある情報源として大きく期待されています。

しかしながら、現在導入されている電子図書館サービスはいくつかの課題があります。

1. COVID-19 流行に対応するための非来館型サービスとして緊急避難的に導入されたものが多く、質・量ともに蔵書の形成が十分ではない。
2. 電子図書館サービスの目的や役割の検討が不十分であるケースも散見される。
3. 利用者が電子図書館サービスに対してどのような役割や期待を持っているのか明らかになっていない。

これまで私が進めてきた研究からこうした課題が浮かび上がってきました。そこで現在おこなわれている電子図書館サービスの実態を改めて確認するとともに、利用者たる住民が本当に求めている電子書籍・電子図書館サービスを明らかにし、住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルを検討・提示することで自治体の図書館サービスに還元することを考えています。

現在、全国の公立図書館のご協力をいただきながら住民が求めている電子書籍・電子図書館サービスの要素を検証しています。また、近年人々が利用することが増えた情報メディアの種類やそのニーズもあわせて検証していきます。これらの研究成果が住民に真に求められる電子書籍・電子図書館サービスモデルを明らかにすることを期待しています。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

住民が求める電子書籍・電子図書館サービスを明らかにすることにより、最終的にデジタル資料の特性を生かした住民視点の電子書籍・電子図書館サービスモデルを検討構築することを考えています。これは今後の自治体における電子図書館サービス計画やその実施にあたり貢献できると考えています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「公立図書館におけるハイブリッドな情報提供の実際」
- ・「公共図書館における電子雑誌提供サービス」
- ・「公立図書館における電子図書館サービスによる資料提供と利用の実態」